

# ブラックロック・ グローバル・バランス・ファンド

追加型投信／内外／資産複合

## 交付運用報告書

第40期(2018年12月17日決算)

作成対象期間(2018年6月19日～2018年12月17日)

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。さて、「ブラックロック・グローバル・バランス・ファンド」は、このたび、第40期決算を行ないました。

当ファンドは、内外の公社債を中心に株式にも分散投資するバランス運用により、リスクを低減しながら、円ベースでの信託財産の安定した成長を目指して運用を行ないました。当期につきましても、これに沿った運用を行ないました。

ここに、運用経過について、ご報告いたします。今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

ブラックロック・ジャパン株式会社

〒100-8217 東京都千代田区丸の内一丁目8番3号

丸の内トラストタワー本館

運用報告書に関するお問い合わせ先

電話番号:03-6703-4300

(受付時間 営業日の9:00～17:00)

ホームページアドレス

[www.blackrock.com/jp/](http://www.blackrock.com/jp/)

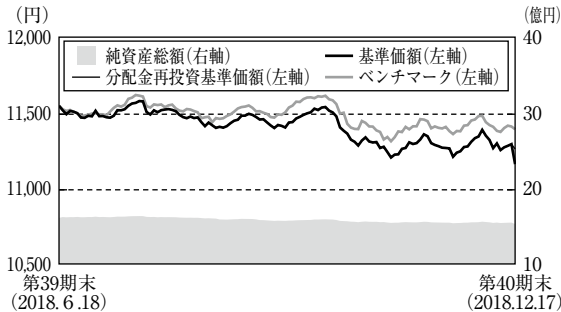
第40期末(2018年12月17日)	
基準価額	11,160円
純資産総額	1,528百万円
騰落率	△2.5%
分配金	100円

(注) 騰落率は収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

- 当ファンドは、投資信託約款において「運用報告書(全体版)」に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。右記弊社ホームページの「ファンド・ETF情報」、「投資信託」から当ファンドのファンド名を選択することにより、当ファンドの「運用報告書(全体版)」を閲覧およびダウンロードすることができます。
- 「運用報告書(全体版)」は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

◇運用経過

■当期中の基準価額等の推移について（第40期：2018年6月19日～2018年12月17日）



第40期首：11,546円  
 第40期末：11,160円(既払分配金100円)  
 騰落率：-2.5%(分配金再投資ベース)

- \* 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- \* 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。
- \* ベンチマークは、複合インデックスです。詳細につきましては後記をご覧ください。
- \* 分配金再投資基準価額およびベンチマークは、前期末の基準価額に合わせて指数化しています。

■基準価額の主な変動要因

当期、当ファンドの基準価額の騰落率は-2.5%となりました。当期、内外株式市場が下落しブラックロック・グローバル・ファンズ グローバル・オポチュニティズ・ファンドおよびブラックロック・グローバル・ファンズ ジャパン・スモール・アンド・ミッド・キャップ・オポチュニティズ・ファンドが下落したことが、当ファンドの基準価額の主な下落要因となりました。

■投資対象ファンドの当期間中の騰落率

組入ファンド	騰落率
ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジなし)	1.5%
ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジあり)	0.0%
日本債券マザーファンド	0.1%
ブラックロック・グローバル・ファンズ グローバル・オポチュニティズ・ファンド	△ 5.5%
ブラックロック・グローバル・ファンズ ジャパン・スモール・アンド・ミッド・キャップ・オポチュニティズ・ファンド	△18.2%

\* ブラックロック・グローバル・ファンズ グローバル・オポチュニティズ・ファンドは米ドル建てであるため、米ドルベースの騰落率を記載しております。

■ 1万口当りの費用明細

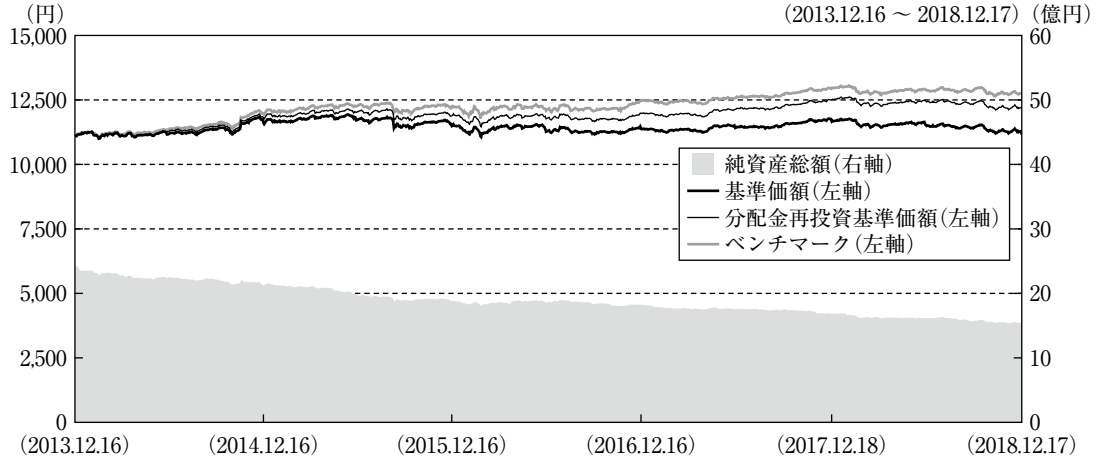
項目	第40期		項目の概要
	(2018. 6. 19～2018. 12. 17)		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	円 84	% 0.738	信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 期中の平均基準価額は11,406円です。
(投信会社)	(42)	(0.366)	投信会社分は、委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(40)	(0.350)	販売会社分は、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託銀行)	( 2)	(0.021)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料	0	0.001	売買委託手数料 = 期中の売買委託手数料 / 期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(先物・オプション)	( 0)	(0.001)	
(c) 有価証券取引税	-	-	有価証券取引税 = 期中の有価証券取引税 / 期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) その他費用	1	0.011	その他費用 = 期中のその他費用 / 期中の平均受益権口数
(保管費用)	( 1)	(0.006)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(その他)	( 1)	(0.005)	信託事務の処理等に要するその他諸費用
合計	86	0.750	

(注1) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当りのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■最近5年間の基準価額等の推移について



(注) 分配金再投資基準価額およびベンチマークは、2013年12月16日の基準価額をもとに指数化したものです。

\* 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

\* 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。

	2013年12月16日 期初	2014年12月16日 決算日	2015年12月16日 決算日	2016年12月16日 決算日	2017年12月18日 決算日	2018年12月17日 決算日
基準価額(分配前) (円)	11,099	11,609	11,484	11,378	11,662	11,160
期間分配金合計(税込み) (円)	-	200	200	200	200	200
分配金再投資基準価額の騰落率(%)	-	6.4	0.6	0.8	4.3	△ 2.6
複合インデックス騰落率(%)	-	7.6	2.3	2.2	3.8	△ 1.8
純資産総額 (百万円)	2,410	2,116	1,865	1,811	1,674	1,528

\* ベンチマークは、複合インデックスです。

複合インデックスは、以下の指標をそれぞれの割合で合成した指数です。国内債券：NOMURA-BPI50%、外国債券：FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)10%、同インデックス(除く日本、円ヘッジ円ベース)10%、国内株式：TOPIX(東証株価指数)10%、外国株式：MSCIコクサイ指数(円換算ベース)10%、短期金融商品：無担保コール翌日物10%。

なお、ベンチマークを構成する指数は、各種金融機関等で公表されており、その機関等の知的財産です。またこれらの機関等は、当ファンドの運用成果等に関する一切の責任を負いません。

## 投資環境について

当期(2018年6月19日から2018年12月17日までの6ヶ月間)の投資環境は、株式等のリスク性資産が下落し、他方で長期債市場では金利の低下(価格は上昇)が進行するという形で運用リスクが低い資産が優位の傾向となりました。

### <内外株式市場動向>

株式市場は、米国S & P 500種株価指数が前期末の2773.75から当期末に2545.94へ下落し、東証株価指数(TOPIX)についても前期末の1771.43から当期末に1594.20へ下落しました。

### <内外債券・為替市場動向>

債券市場では、日本10年国債利回りが前期末の+0.04%から+0.04%へと横這い推移となりました。米10年国債利回りは、前期末の+2.92%から当期末には+2.86%へ、またドイツ10年国債利回りも、+0.40%から当期末には+0.26%へと低下しました。

為替市場では、ドル/円は前期末の110.57円から113.47円へと円安ドル高、ユーロ/円は前期末の128.04円から当期末は128.28円へと円安ユーロ高に推移しました。

## ポートフォリオについて

### <当ファンド>

上記投資環境を反映し各資産のベンチマーク・リターンは国内債券が+0.06%、国内株式が-10.00%、外国債券ヘッジ付きが+0.20%、同ヘッジなしが+1.82%、外国株式が-6.26%となりました。当ファンドの資産配分においてはほぼ中立での運用を行いました。

投資先ファンドにおける運用経過は以下の通りです。

### <日本債券マザーファンド>

中期ゾーンを中心とする曲率が乏しいカーブ形状やカーブ全体にスティープ化余地大との見方等を背景に、イールド・カーブに関しては、短期・7年近辺のオーバーウェイト及び5年近辺・10年超(特に20年超)のアンダーウェイトを維持しました。ポートフォリオのデュレーションはベンチマーク対比ショートを維持しました。セクター配分については、引き続き政府保証債および地方債の明瞭なアンダーウェイト、国債のオーバーウェイトを維持しました。事業債や円建外債等の信用リスクを伴う債券のセクターウェイト及び銘柄選択に関しては、日銀の社債買入れの影響やプラス利回りへの選好等から国内事業債を中心にスプレッド水準が必ずしも魅力的でないこと等から、デュレーション調整後で概ね中立から小幅アンダーウェイトを維持しました。

### <ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジなし/為替ヘッジあり)>

デュレーション戦略に関しては、米ドル圏ではデュレーションを機動的に調整しつつ、米金利及び米ドルの上昇、米中貿易戦争の現実化、欧州の政治的リスクといった一連のリスク要因を背景に市場の不透明感が高まっている中、リスクオフ局面でのヘッジ効果も兼ねたオーバーウェイトを継続しました。ユーロ圏については、ECB(欧州中央銀行)が量的緩和縮小にむかう中、デュレーションのアンダーウェイトを基本としましたが、イタリアの財政懸念が高まった局面やグローバルなリスクオフ時などには一時的にオーバーウェイトを構築しました。欧州周辺国については、イタリアの財政リスクやバリュエーション等に着目した相対価値戦略を中心に機動的に運用しました。イールド・カーブ戦略については、米ドル圏では、利上げの市場織り込み具合やカーブ状況を踏まえ、中期部分をオーバーウェイトとしつつ、長期部分はより戦術的な対応としました。ユーロ圏では、ECBは来年夏以降までは金利を低位に維持するとしており、短期金利の上昇余地は限られる

と見る一方、量的緩和縮小は長期金利の上昇要因になると考え、長期セクター主導での金利上昇を想定したポジションを基本としました。セクター配分戦略に関しては、秋以降にスプレッド水準が拡大した局面で社債へのアロケーションを機動的に積み増しました。特に金融セクターと産業セクターを選好しつつ、新発債発行や市場の動きを利用し機動的に調整しました。

パフォーマンスは、ユーロ圏のアンダーウェイトを中心にデュレーション戦略がプラスとなった一方で、米ドル圏とユーロ圏でイールド・カーブ戦略がマイナスのリターンとなりました。セクター配分については、イタリアを中心としたボラティリティの影響をうけ、欧州圏内の国別配分がマイナス寄与となりました。また、クレジットスプレッドが広い範囲で拡大する中、社債へのアロケーションがマイナス寄与となりました。

#### <ブラックロック・グローバル・ファンズ グローバル・オポチュニティズ・ファンド>

当期、ヘルスケアセクター（特に、ヘルスケア機器・用品セクター）のオーバーウェイトおよび銘柄選択がパフォーマンスのプラス要因となりました。また、金融セクター（主に銀行）および一般消費財・サービスセクターの銘柄選択もプラス要因となりました。一方で、生活必需品セクターのオーバーウェイトおよび同セクターのうちタバコセクターの銘柄選択がパフォーマンスのマイナス要因となりました。また、当期ディフェンシブ銘柄が選好されるなか、相対的に好調なパフォーマンスとなった公益事業および不動産の両セクターを非保有としたこともマイナス要因となりました。

当期、主な投資行動としては、資本財・サービスセクターの組入れを引き下げた一方、ヘルスケアセクターの組入れを引き上げました。また、金融セクターのうち銀行セクターの組入れを若干引き下げました。

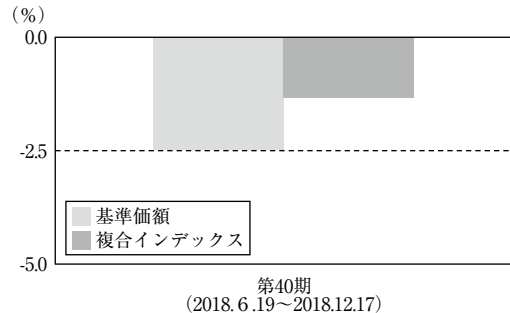
#### <ブラックロック・グローバル・ファンズ ジャパン・スモール・アンド・ミッド・キャップ・オポチュニティズ・ファンド>

当期の国内株式市場は、米中貿易摩擦に対する警戒感が一時的に後退したことで上昇する局面があったものの、米国長期金利上昇に伴い投資家のリスク回避姿勢が強まり下落に転じ、さらには中国景気減速や企業業績への不透明感が台頭してきたことなどに加え、米中貿易摩擦の行方への懸念が再燃し、前期末対比で下落となりました。このような環境下で、好業績基調とはいえ市場の期待値が高く今後の株価上昇余地が小さいと判断した総合化学メーカー等を売却した一方で、業績堅調にも関わらず米中貿易摩擦への警戒から製造業全般が売られる流れに伴い株価低迷となり投資魅力がでてきたと判断した機械メーカー等を購入しました。また、主力事業の好調が再評価された冷凍食品メーカーなどがパフォーマンスに貢献した一方で、大株主の株式売却に伴う株式需給悪化が嫌気された製造業向け人材派遣会社などがパフォーマンスにマイナスの影響を与えました。

#### ベンチマークとの差異について

当期、当ファンドの基準価額の騰落率は-2.5%となり、ベンチマークである複合インデックスは-1.3%となりました。

#### 【基準価額とベンチマークの対比(期別騰落率)】



## 分配金について

収益分配は基準価額水準、市場動向等を勘案して、1万口あたり100円とさせていただきます。留保益の運用につきましては、運用の基本方針に基づき運用を行いません。

## ■分配原資の内訳(1万口当り)

項目	当期 2018年6月19日 ～2018年12月17日
当期分配金(税込み)	100円
対基準価額比率	0.89%
当期の収益	-円
当期の収益以外	100
翌期繰越分配対象額	1,917

- (注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売却等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。
- (注2) 円未満は切り捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金(税込み)に合致しない場合があります。
- (注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

## 今後の運用方針について

### <内外株式市場に関する市場見通し>

日本の株式市場については、足元、世界的な景気減速に対する懸念が広がる中で企業業績の見直しは下方修正が優勢となっており、この傾向が続く間は割安なバリュエーションは見直され難いとしています。米ドル安の進展や、新たな地政学リスクの台頭、米中関係の緊張化といった要素によって、日本株式市場が更に調整する可能性もあるため、注視が必要です。

外国株式市場については、引き続き、米国を中心とした貿易問題が上昇を抑えることとなると思われます。バリュエーション面での割安感は乏しいため、業績拡大期待の高まりや金融政策の緩和化といった追加的なサポート材料が無い限りは、ボラティリティが高い状況が継続することが見込まれます。

### <内外債券・為替市場に関する市場見通し>

国内債券市場は、日銀のイールドカーブ・コントロール政策を背景に国債利回りは比較的低位でのレンジ形成が続くと見えています。ただ、日銀による金融政策の一部柔軟化や国債買入れ減額の幾分の積極化等の市場機能改善策を受けて、金利が上昇し、イールド・カーブがスティーブ化する余地もあると考えられます。

米国債券市場は、F R B (米連邦準備制度理事会)の金融政策に対する見通しや、実体経済、特に物価上昇に対する見通しの変化や信用リスク市場の動向によって、不安定に推移するものと思われます。こうした観点から、中期及び長期金利についてはやや弱気、短期金利のリスク調整後の利回りが相対的に魅力的であると見えています。

### <今後の当ファンド資産配分戦略予定>

上記見通しに従って、全資産を概ね中立として運用する方針です。

投資先ファンドにおける今後の運用方針は以下の通りです。

### <日本債券マザーファンド>

ポートフォリオ属性に関しては、中期ゾーンを中心とする曲率に乏しいカーブ形状やカーブ全体にスティーブ化余地大との見方等を背景に、短期・7年近辺のオーバーウェイト及び5年近辺・10年超のアンダーウェイトを中心とする残存期間構成を維持します。ポートフォリオのデュレーションについては、ベンチマーク対比ショートとします。セクター配分については、近時のプラス利回りへの需要等を背景としたタイトなスプレッド等を踏まえ、政府保証債および地方債の明瞭なアンダーウェイト、国債のオーバーウェイトを維持します。信用リスクを伴う債券のセクターウェイトについては、国内発行体の中長期かつ広範なクレジット悪化局面とは考えないもの

の、日銀の社債買い入れの影響やプラス利回りへの選好等から国内事業債を中心にスプレッド水準が必ずしも魅力的でないこと等を鑑み、事業債、金融債、円建外債あわせて中立から小幅アンダーウェイトとする方針です。

#### <ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジなし/為替ヘッジあり)>

米国を中心とする経済成長は継続すると想定するものの、市場の不透明感是非常に強まっているとの見方をしています。米国のデュレーション戦略に関しては、FRBによる利上げはピークに近づいているとの見方をしており、バリュエーションの観点からも市場のショック時における金利低下余地はあると考える中、ヘッジを兼ねたデュレーションのオーバーウェイトを維持しつつ、機動的にポジションを調整し、収益の嵩上げを図る方針です。ユーロ圏は、量的緩和終了の影響、ECBの今後の政策および政治リスクに注目しつつ、デュレーションの機動的な調整を続ける方針です。

イールド・カーブ戦略については、米国では短中期部分を選好しています。また、ユーロ圏では引き続き中長期セクターを中心とする金利上昇を予想します。

セクター配分戦略については、米国社債に関しては、個社・固有リスクには警戒が必要と考えるものの、割高感の和らいだバリュエーションや底堅い米国企業業績を背景に引き続き選別的に投資を行なう方針です。

#### <ブラックロック・グローバル・ファンズ グローバル・オポチュニティズ・ファンド>

我々は、今後数年間は、世界的に株式市場はプラスのリターンを見せ、株式が債券のリターンを上回ると考えています。

2018年の世界経済は、過去数年間と比較し、不確実性を見せた年でした。2017年とは異なるものの、我々はこのような状況が通常と考えています。景気サイクルも終盤に差し掛かり、金利および賃金の上昇が

経済成長の抑制要因となるが予想されますが、我々はプラスの成長を見込んでいます。将来の金融、財政政策を予想することは難しいものの、ここ数年アメリカおよび中国でとられたような財政措置によるプラスの効果を今後も見込むことは難しいと考えています。経済成長および企業収益の伸びは引き続きプラスとなることが予想されますが、経済成長の度合いについての不確実性が、金融引き締めと相俟って、市場のボラティリティを高めると見込んでいます。

そして、長期的には、人口動態の逆風、生産性の低下などの構造的な要因により経済成長は緩やかな成長になると見えています。このような長期的な環境では、マクロ経済環境にかかわらず、高い収益率で良好な成長を実現できる企業がパフォーマンスを上げられると考えています。

#### <ブラックロック・グローバル・ファンズ ジャパン・スモール・アンド・ミッド・キャップ・オポチュニティズ・ファンド>

資本市場全体は、欧米金融政策が正常化に向かう中、穏やかな経済成長局面に移行しつつあるという変化を映し、売られ過ぎと思われる水準まで調整しています。日本株も日本企業の底堅いファンダメンタルズに対し、バリュエーション(割安度)は過去数年間の最低レンジにあります。短期的には、過度な悲観が修正されることで値を戻す可能性が期待されます。また、特に投資家の注目度が低い中・小型株式市場は、潜在的な利益成長の可能性があるにもかかわらず、低位なバリュエーション水準に放置されている企業が散見される他、独自の成長を続けている企業も多く、依然として魅力的な投資対象であると考えています。引き続き、従来の価値観にとらわれることなく、産業構造や個別企業の「変化」にいち早く着目し、未だ市場において認識されていない高い成長の可能性を持つと考えられる銘柄を積極的に組み入れていきたいと考えています。

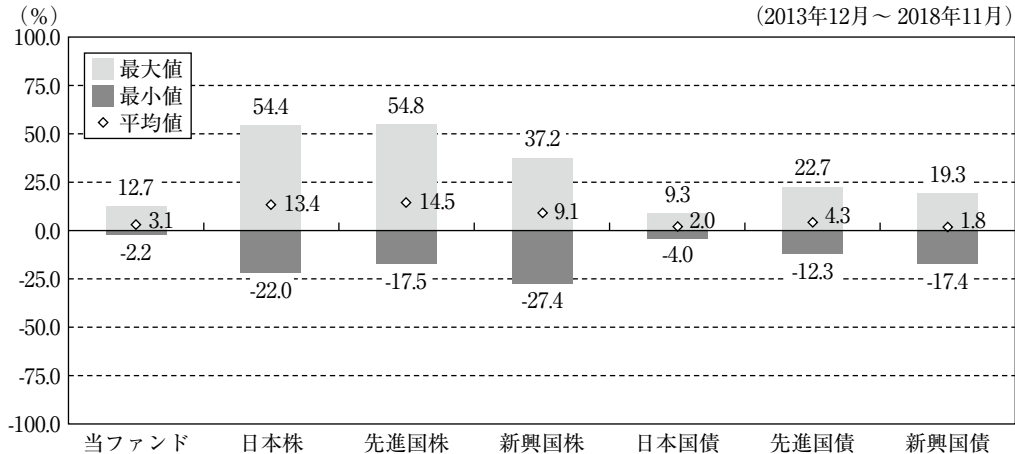


## ◇当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合	
信託期間	無期限(設定日:1998年12月1日)	
運用方針	投資対象ファンドへの投資を通じて、内外の公社債を中心に株式にも分散投資するバランス運用によりリスクを低減しながら、円ベースでの信託財産の安定した成長を目指します。	
主要投資対象	投資対象ファンドは、別に定めるブラックロック・グループの運用会社が運用する投資信託証券で、原則としてアクティブ運用により付加価値を追求する投資信託証券から選定します。	
	証券投資信託 (親投資信託)	<p>【日本債券マザーファンド】 日本の公社債</p> <p>【ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジあり)】 日本を含む世界先進主要国の公社債。外貨建資産については為替ヘッジを行いませんが、一部機動的な運用を行なう場合があります。</p> <p>【ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジなし)】 日本を含む世界先進主要国の公社債。外貨建資産については為替ヘッジを行いませんが、一部機動的な運用を行なう場合があります。</p> <p>【日本株式マザーファンド】 日本の株式</p>
	ルクセンブルグ籍 外国投資証券	<p>【ブラックロック・グローバル・ファンズ ジャパン・フレキシブル・エクイティ・ファンド】 日本の株式</p> <p>【ブラックロック・グローバル・ファンズ ジャパン・スモール・アンド・ミッド・キャップ・オポチュニティズ・ファンド】 日本の株式</p> <p>【ブラックロック・グローバル・ファンズ グローバル・オポチュニティズ・ファンド】 日本を含む世界各国の株式</p>
運用方法	<p>①投資対象ファンドへの投資を通じて、内外の公社債を中心に株式にも分散投資するバランス運用により、リスクを低減しながら、円ベースでの信託財産の安定した成長を目指します。資産配分については、定期的に見直しを行いません。</p> <p>②ファンド・オブ・ファンズ形式による運用を行いません。</p> <p>③外貨建資産については、為替ヘッジによるリスクの低減を図ります。為替ヘッジ(親投資信託における為替ヘッジならびに投資対象ファンドにおいて円に対する為替ヘッジが行なわれている場合はこれを含みます)を行なわない部分を信託財産の純資産総額の原則として30%程度までとします。</p>	
分配方針	<p>年2回の毎決算時(6月16日、12月16日。休業日の場合は翌営業日)に、原則として以下の方針に基づき、分配を行います。</p> <p>■分配対象額の範囲は、繰越分を含めた利子・配当収入と売買損益(評価損益も含みます。)等の全額とすることができます。</p> <p>■分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。基準価額水準、市況動向等によっては分配を行なわないことがあります。将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。</p> <p>■留保益の運用については特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。</p>	

(参考情報)

◇代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(注) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

\*上記は、2013年12月～2018年11月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

\*上記の騰落率は直近月末から60ヵ月遡った算出結果であり、決算日に対応した数値とは異なります。

\*当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

\*各資産クラスの指数

日本株・・・TOPIX(東証株価指数、配当込み)

先進国株・・・MSCIコクサイ指数(配当込み、円ベース)

新興国株・・・MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)

日本国債・・・NOMURA-BPI国債

先進国債・・・FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

新興国債・・・J.P.モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド(円ベース)

<各指数について>

東証株価指数(配当込み)は、東京証券取引所第一部に上場されている全銘柄を対象に時価総額を指数として算出したものです。東証株価指数(配当込み)は、株式会社東京証券取引所((株)東京証券取引所)の知的財産であり、この指数の算出、数値の公表、利用など株価指数に関するすべての権利は、(株)東京証券取引所が有しています。(株)東京証券取引所は、東証株価指数(配当込み)の算出もしくは公表の方法の変更、東証株価指数(配当込み)の算出もしくは公表の停止または東証株価指数(配当込み)の商標の変更もしくは使用の停止を行なう権利を有しています。

MSCIコクサイ指数(配当込み、円ベース)およびMSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)は、MSCI Inc.が開発、計算した株価指数です。MSCIコクサイ指数(配当込み、円ベース)は日本を除く世界の主要先進国の株式を、また、MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)は新興国の株式を対象として算出した指数です。同指数に関する著作権、知的財産その他の一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利及び公表を停止する権利を有しています。

NOMURA-BPI国債は、野村證券株式会社が公表している指数で、日本国債の市場全体の動向を表す投資収益指数です。同指数に関する知的財産権は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、NOMURA-BPI国債の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、NOMURA-BPI国債を用いて行なわれるブラックロック・ジャパン株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。

FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

J.P.モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド(円ベース)は、J.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが発表しており、新興国の現地通貨建ての国債を対象として算出した指数です。同指数に関する著作権はJ.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属しています。

◇ファンドデータ

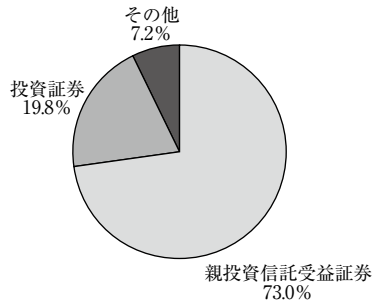
■当ファンドの組入資産の内容

○組入ファンド等

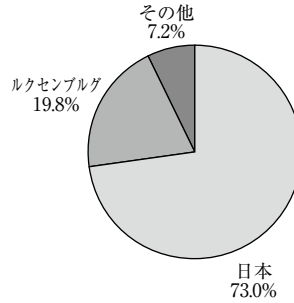
	比率
日本債券マザーファンド	44.3%
ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジあり)	14.7
ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジなし)	14.0
ブラックロック・グローバル・ファンズ グローバル・オポチュニティズ・ファンド	11.4
ブラックロック・グローバル・ファンズ ジャパン・スモール・アンド・ミッド・キャップ・オポチュニティズ・ファンド	8.4
その他	7.2

(注) 比率は第40期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

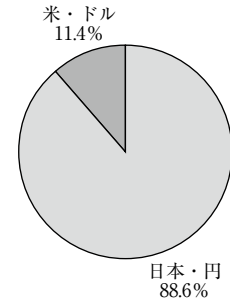
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は第40期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

■純資産等

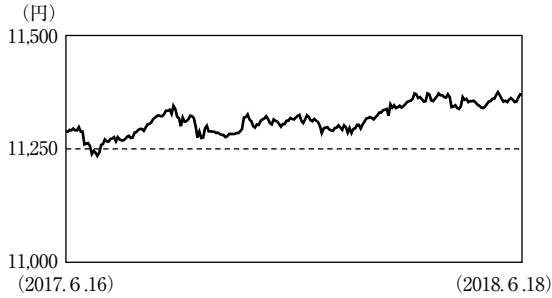
項目	当期末
	2018年12月17日
純資産総額	1,528,277,436円
受益権総口数	1,369,456,090口
1万口当り基準価額	11,160円

\* 当期中における追加設定元本額は50,083,931円、同解約元本額は74,466,266円です。

■組入ファンドの概要

◆日本債券マザーファンド

○基準価額の推移



○上位10銘柄

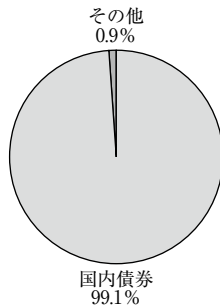
銘柄名	通貨	比率
377 2年国債	日本・円	25.7%
113 20年国債	日本・円	23.8
342 10年国債	日本・円	15.5
24 30年国債	日本・円	12.6
46 30年国債	日本・円	6.2
14 30年国債	日本・円	5.4
17 道路機構	日本・円	2.4
49 クレディセゾン	日本・円	1.1
528 東京電力	日本・円	1.0
304 北海道電力	日本・円	1.0
組入銘柄数	15銘柄	

○1万口当りの費用明細

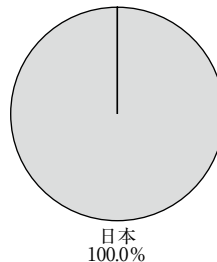
(2017.6.17~2018.6.18)

項目	当期
	円
(a) 売買委託手数料	-
(b) 有価証券取引税	-
(c) その他費用 (その他)	0 (0)
合計	0

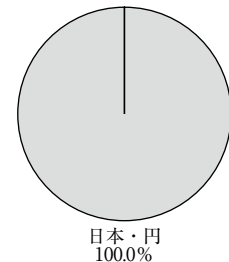
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当りの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものです。

(注2) 1万口当りの費用明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については2ページ(1万口当りの費用明細の項目の概要)をご参照ください。

(注3) 組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

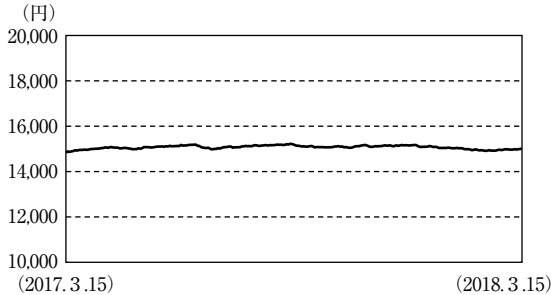
(注4) 通貨別配分のデータは実質為替組入比率を記載しております。

(注5) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

\*組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。

◆ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジあり)

○基準価額の推移



○上位10銘柄

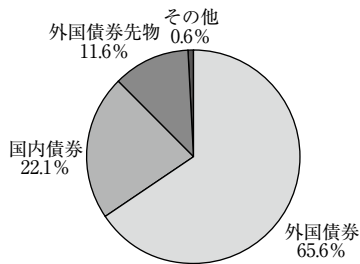
銘柄名	通貨	比率
318 10年国債	日本・円	4.3%
130 20年国債	日本・円	3.2
BUNDESREPUBLIK DEUTSCHLAND 3.25% 2021/7/4	ユーロ	2.1
FRENCH REPUBLIC GOVERNMENT BOND OAT 1% 2027/05/25	ユーロ	2.1
99 20年国債	日本・円	2.0
UNITED STATES TREASURY NOTE/BOND 0.875% 2018/05/31	米・ドル	1.8
UNITED STATES TREASURY NOTE/BOND 1.375% 2021/04/30	米・ドル	1.8
BUNDESSCHATZANWEISUNGEN 0% 2019/03/15	ユーロ	1.8
ITALY BUONI POLIENNALI DEL TESORO 1.25% 2026/12/01	ユーロ	1.8
ITALY BUONI POLIENNALI DEL TESORO 1.6% 2026/06/01	ユーロ	1.5
組入銘柄数	204銘柄	

○1万口当りの費用明細

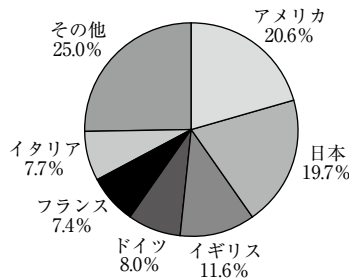
(2017.3.16~2018.3.15)

項目	当期
(a) 売買委託手数料 (先物・オプション)	2円 (2)
(b) 有価証券取引税	-
(c) その他費用 (保管費用) (その他)	3 (3) (0)
合計	5

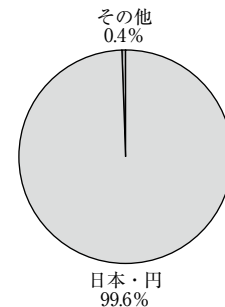
○資産別配分



○国別配分



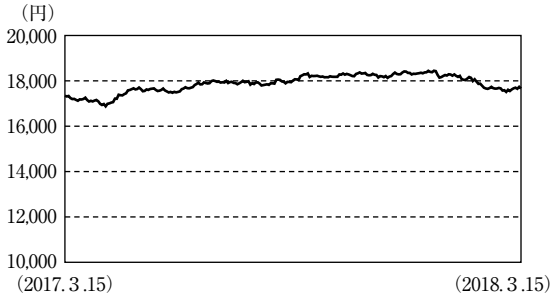
○通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当りの費用の明細は組入ファンドの直近の計算期間のものであります。  
 (注2) 1万口当りの費用明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については2ページ(1万口当りの費用明細の項目の概要)をご参照ください。  
 (注3) 組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。  
 (注4) 通貨別配分のデータは実質為替組入比率を記載しております。  
 (注5) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。  
 \*組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。

◆ワールド・ボンド・マザーファンド(為替ヘッジなし)

○基準価額の推移



○上位10銘柄

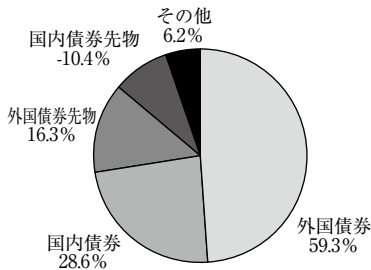
銘柄名	通貨	比率
130 20年国債	日本・円	5.4%
318 10年国債	日本・円	5.3%
338 10年国債	日本・円	4.1%
99 20年国債	日本・円	4.1%
339 10年国債	日本・円	3.3%
FRENCH REPUBLIC GOVERNMENT BOND OAT 0% 2022/05/25	ユーロ	2.5%
ITALY BUONI POLIENNALI DEL TESORO 1.25% 2026/12/01	ユーロ	2.2%
FRENCH REPUBLIC GOVERNMENT BOND OAT 1% 2027/05/25	ユーロ	2.2%
BUNDESREPUBLIK DEUTSCHLAND 1% 2025/08/15	ユーロ	1.8%
ITALY BUONI POLIENNALI DEL TESORO 1.2% 2022/04/01	ユーロ	1.7%
組入銘柄数		158銘柄

○1万口当りの費用明細

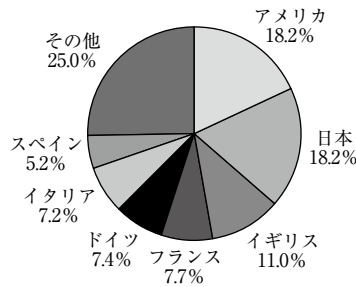
(2017.3.16~2018.3.15)

項目	当期
(a) 売買委託手数料 (先物・オプション)	2円 (2)
(b) 有価証券取引税	-
(c) その他費用 (保管費用) (その他)	5 (4) (0)
合計	7

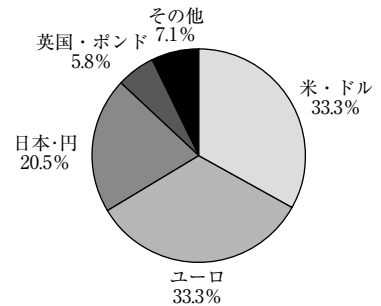
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当りの費用の明細は組入ファンドの直近の計算期間のものであります。

(注2) 1万口当りの費用明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については2ページ(1万口当りの費用明細の項目の概要)をご参照ください。

(注3) 組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

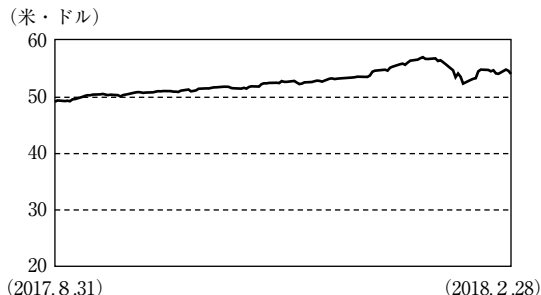
(注4) 通貨別配分のデータは実質為替組入比率を記載しております。

(注5) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

\*組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。

◆ブラックロック・グローバル・ファンズ グローバル・オポチュニティズ・ファンド

○基準価額の推移



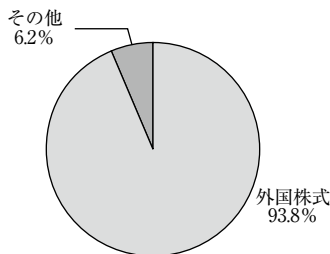
○上位10銘柄

銘柄名	通貨	比率
BRITISH AMERICAN TOBACCO PLC	英国・ポンド	5.9%
MASTERCARD INC CLASS A	米・ドル	5.3
DANAHER CORP	米・ドル	5.1
UNITEDHEALTH GROUP INC	米・ドル	5.1
ASSA ABLOY B	スウェーデン・クローナ	4.6
DEUTSCHE POST AG	ユーロ	4.5
FIRST REPUBLIC BANK	米・ドル	4.4
MEDTRONIC PLC	米・ドル	4.3
ALPHABET INC CLASS C	米・ドル	4.3
INTUIT INC	米・ドル	4.2
組入銘柄数	27銘柄	

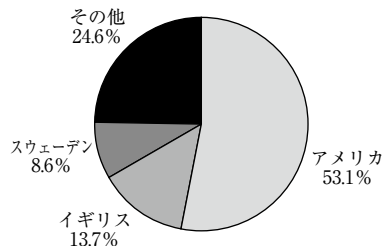
○1万口当りの費用の明細

当該情報の取得が不可能であるため記載しておりません。

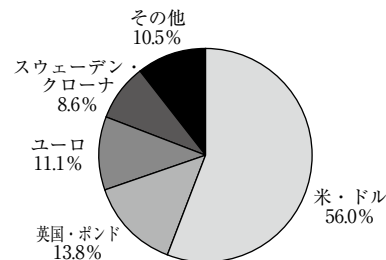
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 基準価額の推移は組入ファンドの直近の計算期間のものです。

(注2) 組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

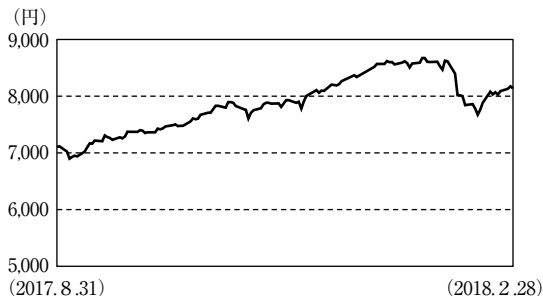
(注3) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

\* 当社適時開示資料作成にあたり使用しておりますブラックロック・グループのデータに基づき記載しております。上記ファンドの管理会社が作成しているデータに基づく運用報告書(全体版)の参考情報と相違する場合があります。

\* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。

◆ブラックロック・グローバル・ファンズ ジャパン・スモール・アンド・ミッド・キャップ・オポチュニティズ・ファンド

○基準価額の推移



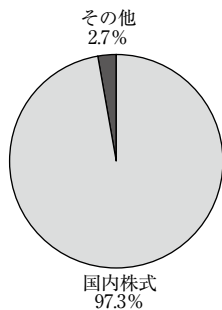
○上位10銘柄

銘柄名	通貨	比率
パーソルホールディングス	日本・円	1.9%
昭和電工	日本・円	1.9
日本ユニシス	日本・円	1.8
マツモトキヨシHLDGS	日本・円	1.8
光通信	日本・円	1.7
三越伊勢丹HD	日本・円	1.6
日揮	日本・円	1.6
ニチレイ	日本・円	1.6
ビックカメラ	日本・円	1.6
ファンケル	日本・円	1.5
組入銘柄数	100銘柄	

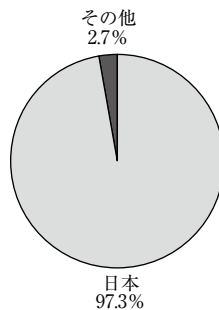
○1万口当りの費用の明細

当該情報の取得が不可能であるため記載しておりません。

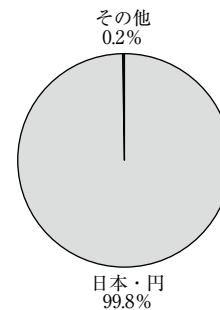
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 基準価額の推移は組入ファンドの直近の計算期間のものです。

(注2) 組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

(注3) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

\* 当社適時開示資料作成にあたり使用しておりますブラックロック・グループのデータに基づき記載しております。上記ファンドの管理会社が作成しているデータに基づく運用報告書(全体版)の参考情報と相違する場合があります。

\* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。